

平成26年度「特別教育プロジェクト」報告書 実践力を養う英会話教育の研究 - 知床斜里をケースに

札幌国際大学外国語教育センター
堀内満智子/川名典人 大島エレナ 丹治和典
2015年3月31日

○はじめに

グローバル人材育成は国の教育指針の一つである。また、国の観光政策は外国人誘致等を含む国際観光政策に力点が置かれている。こうした動向を見据えると実践的英会話能力を身に付けた人材育成が必要とされている。本学外国語教育センターはICTに着目しながら、eラーニング、モバイルラーニングによる英語教育を進めているが、本研究はこの延長線上にあるもので、観光の移動、滞在場面で使用される英語を実際の観光地での体験と共に集中的に学ぶことを目的とするものである。本研究の実践場面としては斜里町を選択した。斜里町は世界自然遺産に登録された知床を有する地域で外国人観光客にとっても魅力的な観光地であり(斜里町には平成24年度に23,420人の外国人観光客が宿泊している)、英会話力向上のための学習プログラムを作成する上での素材が豊富にあることが選択の主たる理由である。本研究では知床にある学習素材を確認しながら観光地で使用する英語を学ぶとともに、①定期的にインターネット環境でデジタルタブレット端末を利用した大学と連携高校間でのテレビ英会話の実践と、②観光素材を利用したeラーニングやデジタル教材、そして最終的には「デジタル版知床五湖観光ガイド」の作成も視野に入れたネット環境の構築も完成させた。

○事前準備

ICTを利用した観光地での実践的な英会話を行うためには、使用する機材やWiFi、そして情報を共有するためのSNSやクラウド環境の準備が不可欠である。今回のプロジェクトでは、参加する高校生と大学生全員に事前にアプリ等をインストールしたタブレット端末を持たせた。また、クラウド上で情報を共有したり発信するためにサイボウズLiveというコミュニティサイトを立ち上げた。また、無線環境は高校側のWiFiに制限があるため移動式端末WiFiを利用した。



* 情報共有サイト：サイボウズLive

○実践力を養う観光英会話教育

1. 観光英会話集中セミナー

3日間知床をフィールドとして集中セミナーを実施した。参加者は本学の学生が2名、そして本学教員3名である。また、斜里高等学校からは生徒4名、そして斜里高等学校教諭2名であった。内容は、8月6日から8月8日の3日間斜里町とウトロをフィールドとして観光情報に関する観光英会話を行った。また、タブレット端末を利用して写真や動画を撮り、プレゼンテーション形式で英語で発表させた。

【日程】

8月6日

*斜里高校で自己紹介を含めた英会話学習と事前準備。

8月7日

*斜里町道の駅、鉄道駅、バスターミナルで地域情報に関する英会話

*オシンコシンの滝での英会話は雨のため中止。写真や動画を撮り観光情報を収集。

*知床世界遺産センターで知床の世界遺産に関わる観光資源に関する英会話。

*ウトロ観光船乗り場で遊覧船や知床岬観光に関する英会話。

*ホテル北こぶしで収集した観光情報に関する英語のプレゼン。

手法：タブレット端末で撮った写真を利用してプロジェクターに投影して説明。

8月8日

*斜里町ウトロから知床岬方面へ向かう途中にある知床自然センターで観光資源情報の収集とその内容に関する英会話を実施。

*知床五湖フィールドハウスで知床五湖に関するレクチャーを職員の方から受講。

*知床五湖トレッキングを日本人ガイドの説明で実施。途中で観光資源情報を収集。

トレッキング中は小雨のため英会話は中止。

*フレペの滝を観光ビューア小屋から観察し、英会話を実施。

*知床自然センター内で英会話を実施。

*斜里高校で2日間の学習成果をまとめディスカッションと英語のプレゼンを実施。

*今後の活動予定を確認し集中セミナーを終了。

【参加者のコメント】

高校生

*詳しく説明するのは難しかったけれど、楽しかった。

*なかなか難しくて最初は苦手意識をもってやってしまったけれど、だんだん慣れてくると楽しくて意欲的に取り組めるようになった。

*英語でのプレゼンテーションは初めてだったので文章を考えるとところから苦労しましたが、写真を使ってなのでやりやすかったです。私は短い文章ばかりだったので次に何かの機会があればもう少し詳しく説明した文章を作れるようになりたいです。

*自分の考えを英語でまとめるのは難しかったけれど、体験したことを説明することで、状況を想像しながら英語を話すことができました。

*こんな風に話せたのは初めてだったので、英語の楽しさを更に知ることができました。普段からもこんな授業を取り入れてほしいな。と、思いました。

大学生

- *最初は初めてのことなので緊張しましたが、数回やっていくうちに、「今回は英語でどんな表現をしよう」等と考えることが楽しくなっていました。また、分からないことや疑問に思ったことをそのまま先生に問うため、学ぶことが多くありました。
- *英語でプレゼンテーションすることに慣れていなかったのが最初は戸惑いました。しかし回数を重ねるごとに少しずつ自信がついて、長い文章にもチャレンジしてみようという気持ちになりました。自分の英語力の低さは実感していましたが、このプロジェクトを通して発音が苦手という特に不得意な分野を見つけるきっかけにもなりました。



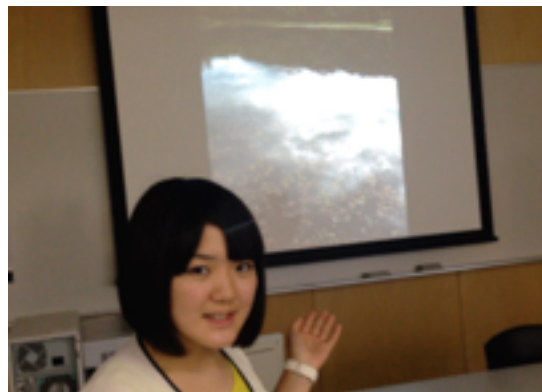
*タブレット端末を利用した学習



*知床世界遺産センターでの英会話



*オシンコシンの滝で情報収集



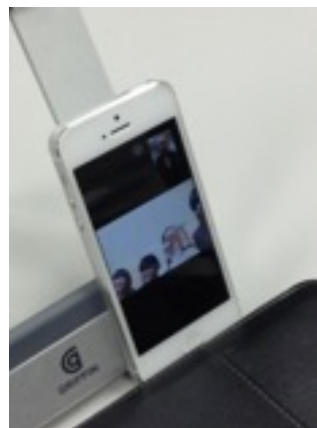
*デジタル端末とプロジェクターを利用した英語のプレゼンテーション

2. インターネットを利用したテレビ英会話レッスン

3日間のセミナー終了後にインターネットとタブレット端末の動画画面を利用したテレビ会話レッスン環境を構築した。2014年10月から2015年3月まで集中セミナーに参加した斜里高等学校の生徒4人を対象として計3回実施した。また、会話の内容をSNSを利用して発信して、学びの定着を図った。



*タブレット端末 (iPad miniを利用)



(スマートフォンiPhoneを利用)



*学習コミュニケーションサイト

テレビ英会話の予約や学習内容、そして質疑応答一括管理する。また、リンク集にeラーニングサイトも設けて、自学学習できる環境を提供する。

3. 知床の観光スポットを素材を利用した日本語・英語紹介サイト

英語集中セミナー中に参加者がタブレット端末で収集した写真素材を利用して知床観光スポットサイトを構築した。合計67枚の写真と英語と日本語による説明が掲載されている。参加者の目線で集めた写真は観光ガイドにない”新鮮さ”と”ローカルな魅力”がある。このサイトコンテンツは次年度の学習支援に利用される。

*斜里プロジェクト（写真サイト）アドレス：<http://gogosiu.lekumo.biz/shariphoto/>



4. タブレット端末を利用したデジタル報告書の作成

学習内容・成果報告書をデジタル版形式で作成した。デジタル化することで文字による説明だけでなく、写真や動画、インタビュー等も含めた多様な形式での保存が可能となった。この形式を利用して次年度はデジタル教材・デジタル観光案内書の作成を検討する。



デジタル報告書のカバー



概要ページ

【成果】

観光地という生きた素材を利用した英会話は効果的であった。文法から学ぶ英語と違い、観光素材を単語で説明しながらコミュニケーションをとる学びは、“達成感”を感じられる学習のため参加者のモチベーションは非常に高かった。新たな英語の教育手法として注目すべき取り組みと考える。また、タブレット端末を参加者全員が利用した取り組みも有効であった。その理由は“感じたこと”を瞬時に収集・発信できるからである。

3日間の集中セミナーの後に継続してライブテレビ英会話を実施したり、SNSを利用してコミュニケーションスキルをアップさせる学習手法も評価できるものとなった。それは、外国人講師と話す機会がほとんど無い環境で、いつでも・どこでもコミュニケーションが取れるからである。

今後は集中セミナーで収集した写真データを利用してeラーニング、デジタル教材、そしてデジタル観光案内書作成の取り組みを行うことでこの参加型の観光英語教育プロジェクトは更に充実すると考える。



*ディスカッションタイム



*参加者と指導教員